

よりそひて
(石川啄木)

解説 啄木が釧路新聞社に勤めていた時に利用した、釧路の
喜望楼きぼうろうという料亭に出入りしていた芸妓・小奴こやくと恋に落ちる。

よりそひて
深夜しんやの
雪ゆきの
中なかに
立たつ

語釈 ※よりそう||びたりと側に寄る。

※右手||右手。

女おんなの
右手めての
あたたかさ
かな

通釈 寄り添って、雪の中で女の手を握りしめた時の暖さを感じた。